

## 第3章 認知症高齢者等の現状と将来推計

### 1 認知症高齢者の現状と将来推計

- 認知症の有病率は高齢になるほど上昇します。このため、高齢化の進行に伴い、認知症高齢者の大幅な増加が見込まれており、厚生労働省が行った推計によると、全国では、2015年の525万人が、いわゆる団塊ジュニア世代が65歳になり始める2040年には最大で約953万人に到達すると見込まれています。
- この推計を本県に当てはめると、2015年の約27.7万人が、2040年には最大で約54.6万人に増加すると見込まれます。
- また、2023年度に愛知県民を対象に実施した「県政世論調査」では、58.7%が認知症の人と接する機会があると回答しており、認知症がとても身近なものになっていることが分かります。

#### ◇ 認知症高齢者数の推計

		2015年	2020年	2025年	2030年	2040年
全国	認知症有病率 が一定の場合	517万人 15.2%	602万人 16.7%	675万人 18.5%	744万人 20.2%	802万人 20.7%
	認知症有病率 が上昇する場合	525万人 15.5%	631万人 17.5%	730万人 20.0%	830万人 22.5%	953万人 24.6%
	認知症有病率 が一定の場合	27.2万人	31.9万人	35.9万人	40.3万人	45.9万人
	認知症有病率 が上昇する場合	27.7万人	33.4万人	38.9万人	44.9万人	54.6万人

※認知症有病率が一定の場合と、糖尿病有病率の増加により上昇する場合の2種類を掲載

※全国数値は、厚生労働省老健局2015年1月27日公表「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」による速報値（下段は65歳以上人口に対する有病率（補正版））

※愛知県数値は、将来推計人口（65歳以上）に上記有病率を乗じた数値



※認知症有病率が上昇する場合の推計値により作成

◇ 県民世論調査（認知症に関する意識について）

1 調査の目的

県民生活に関わりの深い県政の各分野の当面する様々な課題について、県民の関心や意向、要望等を把握し、今後の県の県政運営に反映するための基礎資料とする。

2 調査の設計

- ①調査対象 県内居住の 18 歳以上の県民      ②標 本 数 3,000 人
- ③調査方法 郵送法・インターネット回答併用    ④調査期間 2023 年 7 月 3 日～7 月 21 日

3 回収結果

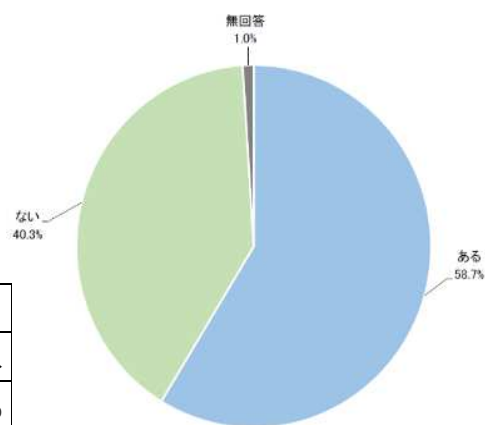
1,507 人 (50.2%)

4 主な調査結果の概要

①認知症の人と接する機会

認知症の人と接する機会の有無について、「ある」と答えた人の割合は 58.7%となっている。一方で「ない」と答えた人の割合は 40.3%となっている。

	人数	割合
「ある」	885 人	58.7%
「ない」	607 人	40.3%
「無回答」	15 人	1.0%
計	1,507 人	100.0%

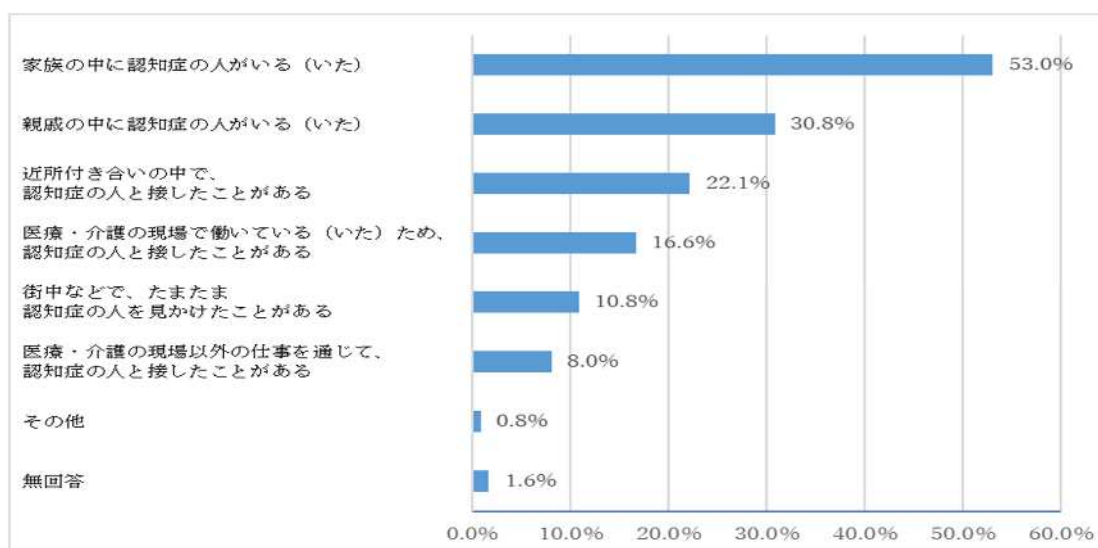


(年齢階層別)

		20代以下	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答
「ある」	人数	70人	103人	113人	159人	82人	352人	6人
	割合	40.2%	54.5%	50.0%	60.5%	64.1%	68.8%	40.0%

②接する機会の内訳

認知症の人と接する機会について、「家族の中に認知症の人がいる (いた)」と答えた人の割合が 53.0%と最も高く、続いて「親戚の中に認知症の人がいる (いた)」(30.8%)、「近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある」(22.1%)の順となっている。



(年齢階層別)

		20代以下	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答
家族の中に認知症の人がいる(いた)	人数	29人	48人	54人	81人	49人	204人	4人
	割合	41.4%	46.6%	47.8%	50.9%	59.8%	58.0%	66.7%
親戚の中に認知症の人がいる(いた)	人数	20人	38人	33人	52人	27人	101人	2人
	割合	28.6%	36.9%	29.2%	32.7%	32.9%	28.7%	33.3%
近所付き合いの中で、認知症の人と接したことがある	人数	10人	9人	11人	35人	20人	111人	0人
	割合	14.3%	8.7%	9.7%	22.0%	24.4%	31.5%	0.0%
医療・介護の現場で働いている(いた)ため、認知症の人と接したことがある	人数	14人	24人	31人	27人	13人	38人	0人
	割合	20.0%	23.3%	27.4%	17.0%	15.9%	10.8%	0.0%
街中などで、たまたま認知症の人を見かけたことがある	人数	6人	6人	5人	28人	10人	40人	1人
	割合	8.6%	5.8%	4.4%	17.6%	12.2%	11.4%	16.7%
医療・介護の現場以外の仕事を通じて、認知症の人と接したことがある	人数	8人	10人	11人	14人	4人	24人	0人
	割合	11.4%	9.7%	9.7%	8.8%	4.9%	6.8%	0.0%
その他	人数	2人	0人	1人	1人	1人	2人	0人
	割合	2.9%	0.0%	0.9%	0.6%	1.2%	0.6%	0.0%
無回答	人数	0人	0人	4人	6人	4人	0人	0人
	割合	0.0%	0.0%	3.5%	3.8%	4.9%	0.0%	0.0%

## 2 若年性認知症の人の現状

- 若年性認知症とは、65歳未満で発症した認知症のことです。若年性認知症は、医学的には高齢者の認知症と変わりませんが、その発症年齢の若さにより、仕事や家事、子育て等に影響を与え、経済的な面でも負担が大きくなることが想定されます。2017～2019年度に実施された全国調査によると、全国で3.57万人と推計されています。
- この推計を本県に当てはめると、県内の若年性認知症の人は、約2,200人と推計されます。

## 3 軽度認知障害(MCI)の現状

- 軽度認知障害(MCI:Mild Cognitive Impairment)とは、記憶障害や軽度の認知障害が認められ、正常もしくは年齢相当とはいえない低下を認めるものの、日常生活に支障をきたす程度には至らないため認知症と診断するほどの障害ではない状態を指します。
- 厚生労働省の発表によると、2012年時点で軽度認知障害(MCI)の高齢者は、全国で約400万人いると報告されています。軽度認知障害(MCI)は、年間10～30%が認知症に進行するとされている一方で、正常な状態に回復する人もいることが報告されています。